



東日本大震災発生時に
0歳だった赤ちゃんが、
無事にハタチを迎えるその日まで。



ハタチ基金

公益社団法人ハタチ基金

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F

TEL:03-3330-0005 (平日9:00~18:00)

www.hatachikikin.com



ハタチ基金

ハタチ基金 2017年度活動報告書

Report 2017

ハタチ基金とは、
東日本大震災の被災地の子どもたちに寄り添い、
20年間継続的に支援を行う基金です。



それでも、私たちにできることを探そう—。
 細い糸のような最初の一步から7年。
 これからも皆様と一緒に、
 そのときどきに必要な支援を子どもたちに届けていきたい。

震災発生直後、NPOの仲間たちと初めて現場に入った時のことは、忘れることができません。

何かしなければいけない。でも、この瓦礫の下にはまだたくさんのご遺体や行方不明者がいる。そう泣く皆さんを前に、なんと声をかけていいかすら、わからない。ただ呆然とそばに居ることしかできませんでした。

それでも、私たちにできることを探そう—。
 そんな中で縁をいただいたのが福島県南相馬市でした。

2011年6月から南相馬の子どもたちの支援活動を始めるとともに、仲間と一緒にハタチ基金を設立しました。

震災から7年が経ち、子どもたちは、少しずつ落ち着きを取り戻しつつあります。保護者を含め家庭のストレスも減り、徐々に安定した生活を送れるようになってきました。インフラやお店なども再開し、以前よりも住民の方々の笑顔がみられるようになりました。

でも、目に見えづらい”心の痛み”はまだ消えてはいません。

世界が経験したことがない放射線被害への不安、避難指示や補償の有無などによる見えない対立、ままならない生活再建、家族別々の生活、知り合いのいない土地での孤立。

やむを得ない複雑な事情を大人達は抱えながら暮らしています。そして、子どもたちは大人の不安や些細な対立を敏感に察知します。そうした環境で大事な成長期を過ごす子どもたちには、息の長い支援が必要です。

東北で最初の一步を踏み出した時、それは、切れそうな細い糸のようでした。それがだんたん太くなり、今では、まるで布を編むような広がりを見せています。

最初は「どうせすぐいなくなるでしょ?」と言われた私たちも、活動を続けることができたおかげで地域の人や行政との信頼関係も生まれ、応援してくれる方々も増えました。

皆様のご支援は強い糸のようで、その糸で私たちは一緒に布を織っているような気がしています。子どもたちが震えているとき、その大きな布でくるむように守ってあげたい。

多くの皆様のご支援により、ハタチ基金は、子どもたちにそのときどきに必要な支援を届けてまいります。今後ともハタチ基金へのご支援・ご参画のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



公益社団法人ハタチ基金 代表理事

白井 智子



苦しく辛い経験をした子どもは、
 誰よりもつよくやさしくなれる。
 被災地の子どもたちの成長は
 この国の新たな希望です。

家族を失う。
 友達を失う。
 こんなにも大きな試練を一人で乗り越えていくことは、
 とても大変です。しかし、長期にわたり
 「君はひとりじゃない」と励まし、子どもたちに
 やさしさを届け続ける存在がいたら。
 きっと試練を乗り越えるための原動力の
 一つになれるのではないのでしょうか。そしてきっと。
 乗り越えた試練の分だけ
 強さと優しさをもった大人となり、
 社会の中で起こる次なる試練の解決にも
 取り組める人となれるはずです。
 そのようなおもいでハタチ基金は設立されました。

CONTENTS

- 1 もくじ
- 2 代表理事より
- 3 子どもたちを取り巻く現状とハタチ基金のこれから
- 4 ハタチ基金とは
- 5 卒業生インタビュー
- 6 レポート：
スタディクーポンの広がる可能性
- 7 支援団体の活動報告
- 15 個人からのご支援
- 17 企業・団体からのご支援
- 18 支援者様からのメッセージ
- 19 会計報告
- 21 ハタチ基金へのご支援の方法
- 22 運営団体紹介



子どもたちをとりまく現状

東日本大震災から7年半。

被災地では、公的インフラの復旧が終了に向かっています。住宅再建の柱である災害公営住宅や自宅再建のための宅地造成は、今年度の2018年度までに概ね完了したとの見通しが復興庁により示されています。福島第1原子力発電所事故による避難指示区域は、震災直後の11市町村から原発周辺の双葉町、大熊町、浪江町の一部など7市町村になりました。

一方、岩手県の調査では、震災からの復旧・復興が遅れていると感じる人が約4割、逆に進んでいると感じる人が約3割と復興の実感を得られていない人が上回っています。

別の調査では、被災した人の2人に1人が「気分が沈みがち」「よく眠れない」「薬が必要になった」など震災による心身への影響が続いていると答えており、福島出身者でみると、「心身への影響が続いている」と約7割の方が回答しています。

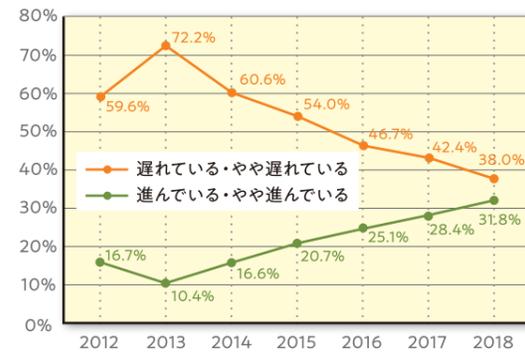
全国の避難者数は、いまだ約6万人にのぼります(2018年7月現在)。

こうした大人の健康状態や長引く避難生活は、子どもの心や健康に大きな影響を与え、不登校の増加、就学前幼児の問題行動の増加等が指摘されています。

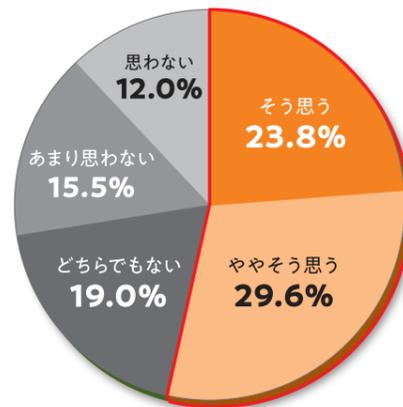
震災によるストレスがもたらす症状は、「数年後に出る可能性もある」とも言われ、阪神淡路大震災では、震災から8年あまり過ぎて初めて発症した児童生徒が100人近くいたという報告もあります。

参考：平成30年「岩手県の東日本大震災津波からの復興に関する意識調査」結果(データ編)について(岩手県)／東日本大震災7年被災者アンケート(NHK)／全国の避難者数(復興庁)

復興・復旧の実感(岩手県)



Q心身への影響が続いているか



ハタチ基金のこれから



ハタチ基金のこれから

ハタチ基金は、震災で直接被害を受けた子どもたちへの支援はもちろん、震災に起因する子どもたちの課題や、震災が顕在化させた貧困などによる教育格差などの社会問題に継続的に取り組んでいきます。課題先進地ともいわれる東北で教育事業を行うことは、この国の未来への投資につながると考えます。

被災地における現状の課題

- 貧困の拡大**

経済的困窮が学習機会の不平等につながり、結果として世代をこえた貧困の連鎖をうむ
- 生活の崩壊**

家や仕事を失うことによる家庭環境の変化
現在も元の状態にもどっていない
- 人心の荒廃**

被災そのものや補償による労働意欲や家庭環境の変化
- 災害の持続**

先行きのみえない福島原発事故に由来する諸課題

ハタチ基金とは、

東日本大震災の被災地の子どもたちに寄り添い、
20年間継続的に支援を行う基金です。



0歳から20歳までの各年代の子どもたちへの支援事業が助成の対象です。

2017年度の支援事業

コラボ・スクール
大槌臨学舎(岩手県大槌町)
女川向学館(宮城県女川町)
双葉みらいラボ(福島県広野町)

勉強する場を奪われた子どもたちに、
学べる場を



おうち保育園
(宮城県仙台市)
被災地の親子に寄り添う保育園
としての「保育ソーシャルワーク」



みなみそうまラーニングセンター
(福島県南相馬市)
子ども一人ひとりに合わせた
居場所づくりとサポートを



スタディクーポン提供事業
(事務所：宮城県仙台市)

※全国に避難している児童生徒を含む
被災児童生徒が対象

学習塾や習い事に通えなくなった
子どもたちへ、教育の機会を





子どもから大人へと成長した7年—。 子どもたちに寄り添う 心理カウンセラーになりたい。



震災当時小学6年生だった1人の女の子。

中学1年生からコラボ・スクール女川向学館に通い、

19歳になった彼女は、コラボ・スクールのスタッフとして働きながら、夢を追いかけています。

子どもから大人へと成長した7年を振り返った彼女の想いをお伝えします。

2011年3月11日。

小学6年生だった私は、卒業式の練習中でした。大きな地震がきて驚きましたが、私達の学校からは津波が見えなかったため、その時は、それほど大きな事だと思っていませんでした。その晩は、学校に友達と泊まれることにワクワクした気持ちでした。



▲母校の時計はあの時から止まったまま

次の日、お母さんが迎えに来てくれて、全て流された女川の町を見た時に、初めて被害の大きさを知りました。同時に、何もなくなった自分の家の跡地を見ても、どうしても自分事として捉えることが出来ず、まるで別の世界の出来事を見ているような感覚でした。



▲現在も工事中の街並

4か月の避難所生活、それから約7年間は仮設住宅暮らし。

今年2月、ようやく公営住宅に引越しました。

コラボ・スクールには、中学1年から高校を卒業するまで通いました。勉強をする場所があることだけでなく、親身になって自分の話を聞いてくれる大人が常にいてくれたことが、すごくありがたかったです。震災直後の中学生の頃は「自分の話を聞いてほしい。」「自分に注目してほしい。」という気持ちをどう伝えていいのかわからず、スタッフに暴言を吐いてしまったことも。それでも、「どうした?」「今日は学校どうだった?」と話を聞いてくれて、ずっと寄り添って、私の居場所を作ってくれました。



▲昔から変わらぬ笑顔

中学・高校、そして今も変わらず自分の将来について相談させてもらっていて、コラボ・スクールは、私にとって第二の親のような存在です。

コラボ・スクールに通ってくる子ども達を見ていると、当時の自分を見ているような気持ちになります。素直になれない彼らの気持ちが分かるからこそ、なんでも受け止めよう、そう思って日々過ごしています。子どもたちと接する中で、心理カウンセラーになりたいという夢も見つめました。



私もいつか、誰かの第二の親のような存在になれたらいいな。

そんな想いで今、スタッフとして働いています。

スタディクーポンの広がる可能性

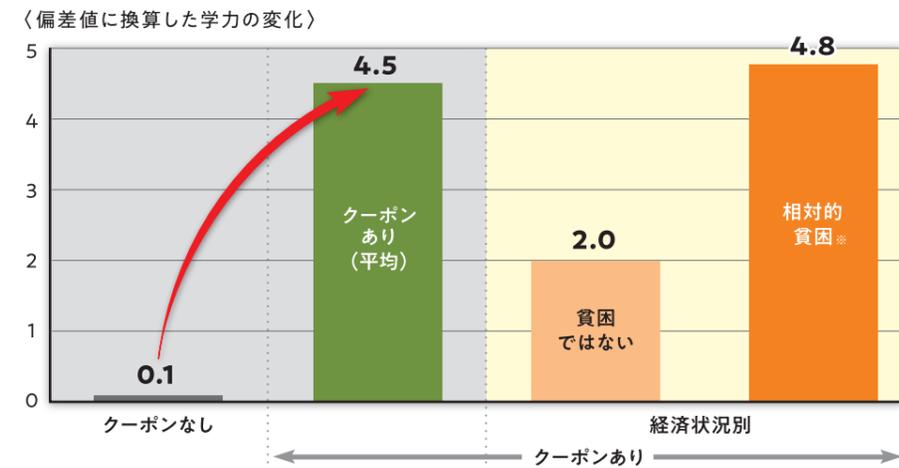
ハタチ基金がこれまで取り組みを支援してきたチャンス・フォー・チルドレン(以下CFC)では、スタディクーポン制度を利用し、延べ2,000名以上の子どもたちの教育支援を行ってきました。今回は、被災地におけるスタディクーポンの効果測定を行った、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社主任研究員の小林庸平さんにお話を聞きました。



スタディクーポンによって生まれた変化

スタディクーポンの採択者・非採択者からのアンケートをもとに分析を行い、結果をまとめたものが下の図です。「クーポンなし」の場合、偏差値の上昇は0.1と横ばいであるのに対して、「クーポンあり」の場合、偏差値が平均で4.5上昇しており、クーポン受給後、学力を上昇させていることがわかります。また、クーポンの効果は経済状況が悪い世帯の子どもほど高くなっています。

スタディクーポン受給前後における学力の変化



クーポンの効果を確認された背景としては、クーポンの①個人のニーズに合わせて利用先を選択できる制度設計の柔軟性、②民間の教育サービス活用による質の担保、③クーポン利用の有無が外からではわからないため、偏見や差別などが発生しにくい、などが考えられます。今回の効果測定は、東日本大震災の被災児童生徒(中学生・高校生)が対象ですが、小林主任研究員は「スタディクーポンのような柔軟な仕組みは、貧困世帯の子どもに対する効果的な支援策になり得る。」と期待を示されていました。

自治体施策としての活用

CFCが提案するスタディクーポンは、新たに東京都渋谷区などで導入しようとする動きが見られるなど、教育格差縮小の有効な方策として注目されています。東北の子どもも支援で得られた知見を、東北全体、そして日本全体に広げていきたいと考えています。

参考: KOBAYASHI Yohei(2018) "The Effect of Shadow Education Vouchers after the Great East Japan Earthquake: Evidence from regression discontinuity design"
小林庸平 (2018) 「学校外教育バウチャーの効果分析とEBPMへの示唆」RIETIコラム
※相対的貧困とは、等価可処分所得(世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分(貧困線)に満たない世帯



おうち保育園 【0歳～】

認定NPO法人フローレンス

被災地の親子に寄り添う保育園としての「保育ソーシャルワーク」



TOPICS ▶▶▶

① フローレンスの「おうち保育園」

仙台の子育て世帯が安心して子どもを預ける事ができる家庭的な保育を目指して、2015年4月から0歳～2歳の子どもたちを対象とした「おうち保育園」事業を仙台市にてスタート。2017年4月には3園目となる「おうち保育園かしわざ」を開園し、現在運営を行っています。



② 「保育ソーシャルワーカー」という仕事

保育士は安全で笑顔あふれる保育を実践していくことを常に求められていて、特別な対応を求められる家庭の支援に十分な時間を取れない場合もあります。フローレンスは「保育ソーシャルワーカー」という仕事を新たに作り出し、親子と保育士とともに親子の笑顔をつかってゆくことを目指しています。



課題

保育園が、「親子の笑顔」を守り、生み出すことのできる場所になる。そのための新しい役割「保育ソーシャルワーク」。

被災地は経済的な復興が進むための様々なインフラが求められています。保育の受け皿もその一つであり、フローレンスは被災地に「おうち保育園」を開設してきました。しかし、震災を経て生活を再建しながらの子育てには、養育不安や子ども虐待といった親子の問題、貧困やDV、子どもと養育者の疾病や障害、保育者と保護者のコミュニケーションなど、様々な困難な状況が潜在しています。

活動

保育園の新しい機能である「保育ソーシャルワーク」。それを支える「保育ソーシャルワーカー」。

フローレンスは、親子を支えるセーフティネットとなる「保育ソーシャルワーク」という機能を持つ保育園が必要だと考え、フローレンス仙台支社に、社会福祉の専門知識を有する「保育ソーシャルワーカー」を配置しました。「保育ソーシャルワーカー」は、様々な課題について保育現場と共に考え、ケースに合わせた専門的な対応をしています。



成果

ソーシャルワークと保育サービスを届け、親子の笑顔を取り戻すことができました。

対象家庭の兄妹を一時的に「おうち保育園」でお預かりしました。また、園長中心に保育士と保育ソーシャルワーカーがチームを組んで、その家庭の養育環境の事実を整理しながら適切なサポートと一緒に考え、次年度以降も継続的に保育サービスを受けられるように、行政手続きなどの支援を行うことができました。

今後のビジョン

すべての被災地の保育園に「保育ソーシャルワーク」の機能を。

2017年度の取り組みを経て、保育ソーシャルワーカーを配置したことによる親子の支援のあり方について検討をはじめることができました。しかし、まだ量的な解決—すべての親子に保育ソーシャルワークを届けること—には至っていません。具体的な支援を積み重ねていくことによって、基本的なインフラとして、保育園に保育ソーシャルワーカーが配置されている社会を作っていきます。

VOICE

▼
保護者の声

発達障がいの子どもをおうち保育園へ通わせていました。通いはじめてから、園長先生を初め先生方が良いところをたくさん褒めてくれて伸ばしてくれたお陰で言葉も3語文話せるようになったり、お友だちに優しくしたり、落ち着いて過ごせるようになったのが本当に嬉しかったです。お散歩も毎日連れていってくれ、嫌な顔せずにフォローして頂き心から感謝しています。愛情を持って温かく関わってくれ何より他の子と同じように接してくれたのが救いでした。本当にありがとうございました。

Florence
認定NPO法人フローレンス

認定NPO法人フローレンス 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-14-1 KDX神保町ビル4F
TEL.03-6811-0906(9:00～18:00) <http://www.florence.or.jp/>

「みんなで子どもたちを抱きしめ、子育てとともに何でも挑戦でき、いろんな家族の笑顔があふれる社会」を目指し、子育てと仕事の両立を阻む「病児保育問題」・「待機児童問題」・「障害児保育問題」解決に取り組んでいます。非施設型・共済型という日本初の病児保育の仕組みを構築し、現在首都圏を中心に展開しています。また、待機児童問題では、0歳～2歳を対象とした小規模保育事業を展開し、東京都内に13園、仙台市に3園を運営しています。また、日本初である障害児の長時間預かりを可能にした「障害児保育園ヘレン」を東京都杉並区、豊島区で運営しています。



みなみそまラーニングセンター 【5歳～】

NPO法人トイボックス

子ども一人ひとりに合わせた居場所づくりとサポートを



TOPICS ▶▶▶

① 安心して子育てできるよう、保護者へのサポートも実施

保護者の皆さんとの交流を通して、センターの活動や子ども達の成長、日頃子育てで悩んでいること、困っていることなどを話し合っています。このような機会が保護者同士で気軽に相談し合えるきっかけになっています。保護者からは「日頃の子育ての悩みについて話を共有でき、とても楽になりました。」「仲間がいることがとても心強い」などの感想を頂いております。



② 様々な団体と連携して、子ども達に豊富な体験の機会を提供

関東を中心に200店舗以上展開されている本格江戸前すしの「ちよだ鯨」さんが、ボランティア活動「折り鶴キャラバン」の一環でお寿司を振る舞いに来てくださいました。氷見直送の鯨の解体ショーやお寿司職人体験など盛りだくさんの内容で、子ども達の顔も輝いていました。全国からたくさんの方のご協力を得ながら、様々なイベントをセンターで実施しています。



課題

小学校区の各コミュニティに細やかな子ども支援の仕組みが必要です。

震災と原発事故をきっかけに子ども支援の専門職が地域外に流出し、発達や学習に課題を抱える子ども達の環境は悪化しました。この結果、学校や放課後児童クラブなど子どもの集団が不安定化したため、震災直後の緊急的な対応として専門的支援施設を運営し、対応が必要な子ども達に市内全域から集まってもらい、支援をしてきました。震災から7年が経過し、子ども達の成長と共にできれば地域の中で他の子ども達と一緒に育ってほしいとのニーズも顕在化してきました。そのため、小学校区の各コミュニティ内で細やかな子ども支援の公の仕組みをつくることを課題として、活動を続けています。

活動

家庭、地域、行政と連携し、子ども達に細やかなサポートを。

「みなみそまラーニングセンター」を拠点に、発達障がいや様々な課題を抱える子ども等も含めた地域の子ども達の居場所として学習や生活支援を実施。自立を育む機会として様々な行事を行っています。また、行政との連携のもと、ラーニングセンターから地域の放課後児童クラブに支援員を派遣し、課題を抱える児童をきめ細やかに支えられるよう支援をおこなっています。また、待機児童解消に向けて2017年4月から小規模保育園を開園しました。



成果

子ども達にきめ細やかな対応を実施。

支援を受けている不登校児童生徒数は他の被災地域の水準を大きく下回る。

発達障がいなどを抱える約25名の子ども達が在籍し、延べ1223名を支援しています。また、市内放課後児童クラブに在籍する約650名の学習支援もおこなっています。子どもの発達や子育てに関する悩みなど、保護者からの教育相談件数は月平均14件でした。また、教育委員会との連携により、適切なタイミングで必要な支援を届けることができているため、南相馬市で支援を受けている不登校児童生徒数は全国や他の被災地の水準を大きく下回っています。

今後のビジョン

南相馬市教育委員会と連携し、子どもを取り巻く各機関の連携関係づくり、全国からの支援を南相馬につなげるなどの活動をおこなっていきます。

「すべての子ども達が適切にサポートされる公の仕組みをつくる」という目標に向けて、ラーニングセンターに通う子ども達一人ひとりに細やかなケアをおこないつつ、コミュニケーションや学びの能力などの生活する力を育みます。また、放課後児童クラブの課題を抱える児童への専門的指導力向上を目的として、ラーニングセンターからの支援員派遣を継続していきます。行政と連携し、より良い放課後の生育環境の整備を続け、この機能を地域に根付かせることができるよう活動していきます。

VOICE

保護者の声

保護者の皆様からは「学校に行きたくない和不登校気味だった子が、ラーニングセンターは楽しいから行く!と通うようになり、少しずつ人と関わることに自信を取り戻していきました。そして学校に通う日が増えてきました。」「自分の気持ちをうまく表現できず、お友達とトラブルになることが多かったのに、センターではとても丁寧に子ども達の話聞いて下さるのでとても落ち着いています。」「親に言えない悩みもセンターの先生には言っているようです。」といったお声を多数いただいております。



特定非営利活動法人トイボックス 〒556-0021 大阪府大阪市浪速区幸町2-3-33
TEL.050-3733-5544 <http://www.npotoybox.jp>

さまざまな分野の専門家が集まり、教育からまちづくりまで、多くの活動領域を持つNPOとして活動しています。トイボックスの教育部門であるスマイルファクトリーは現在、大阪府池田市から委託を受け、公教育とNPOの連携としては日本で初めてとなる公設民営の「がっこう」として不登校・ひきこもり・発達障がいなどを抱えた子どもたちや親の支援を展開しています。



スタディクーポン提供事業【6歳～】

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

学習塾や習い事に通えなくなった子どもたちへ、教育の機会を



@ Natsuki Yasuda

TOPICS ▶▶▶

① 372人の子どもをサポート。

大学生ボランティアは1,834回の面談を実施

2017年度は、372名の子どもにクーポンを提供しました。2017年度は新たに、家庭の養育環境が不十分などの理由で通常のクーポン利用者募集時に応募が難しい子どもに対して、随時、自治体や支援団体と連携してクーポンを提供する制度(随時枠)を試行的に設け、1名にクーポンを提供しました。また、大学生ボランティアは、子どもたちと1,834回の面談を行いました。



@ Natsuki Yasuda

② 効果検証を実施。子どもの学力向上が明らかに

シンクタンクである三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社がCFC東日本事業の効果検証を実施しました。分析の結果、1年間クーポンを利用した子どもは、クーポンを利用しなかった子どもより学力が有意に向上していることが分かりました。調査結果は、ディスカッションペーパーとして、経済産業研究所のWEBサイトで公開されています。



課題

依然多くの子どもたちが経済的な困難を抱え、学校外教育の機会を得られていません。

東日本大震災の被害によって、多くの子どもたちが経済的困難を抱え、学校外教育の機会を失いました。2017年度、クーポンを利用する子どもの募集を行ったところ、定員の約3倍の子どもたちから応募が寄せられ、多くの子どもたちに支援を届けることができませんでした。7年間でクーポンを届けられなかった子どもの人数は、延べ約7,000名にのぼります。応募家庭の保護者からは、「ひとり親で、親の介護もしており、余裕がない」といった窮状を訴える声も少なくなく、引き続き一人でも多くの子どもたちをサポートしていくことが求められます。

活動

被災による経済的困難を抱える子どもたちに、地域の学習塾や習い事で利用できるスタディクーポンを提供しています。

被災した子どもたちに対して、地域の学習塾や習い事などで利用できるスタディクーポン(15万~30万円分)を提供しています。この仕組みにより、被災した教育事業者も収入を得ることができます。また、大学生ボランティアが子どもたちと面談を行い、進路や学習、クーポン利用に関する相談にのり、成長を支えています。



@ Natsuki Yasuda

成果

子どもたちが一人ひとりの希望の進路に進めるようにサポートしました。

クーポン利用者の中学3年生と高校3年生に対し、進路実績の調査を行ったところ、高校進学率は100.0%、大学等進学および正規雇用就職率は80.9%でした。また、希望の進路に進めた子どもは88.4%でした。クーポン利用者は進学する子どもが多いですが、高校卒業後に就職する子どももいます。就職先は、メーカーや警察など様々です。子どもたち一人ひとりが希望の進路に進めるよう、サポートを続けていきます。

今後のビジョン

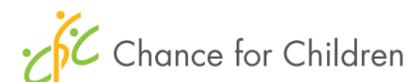
全ての子どもに支援を届ける仕組み作りを進めるとともに、不登校生徒に特化した支援の枠組みを作ります。

落選した子どもたちに支援を届けるため、より多くの寄付金を募集するとともに、2017年度に実施した効果検証の結果をもとに、国・自治体に対する政策提言を行い、全ての子どもに支援を届ける仕組み作りを進めます。また、宮城県内では、震災後、不登校生徒の割合が増えています。不登校の子どもは複雑な課題を抱えているケースが多いため、行政機関や地域の支援団体と連携し、被災した不登校の子どもに特化した新しい支援の枠組みを作ります。

VOICE

生徒の声

私が住む石巻市は東日本大震災で被害を受け、私の家も全壊しました。医療保育士になるという将来の夢を叶えるために、勉強する環境を整えようとしてきたものの、家の修繕にもお金がかかり、塾に行くことはできませんでした。ですが、クーポンをいただいてから、行きたかった塾に行けるようになりました。塾で苦手だった数学を教えていただくようになり、数学の勉強がとても楽しくなりました。私を応援してくださる方がいると考えると心強く、勇気が出ました。クーポンをいただき、ありがとうございました。



公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 〒136-0071 東京都江東区亀戸6-5-54 小川ビル2階
TEL.022-265-3461(代表) <http://www.cfc.or.jp/>

Chance for Childrenは、阪神・淡路大震災で被災した子どもたちの支援を行ってきた特定非営利活動法人ブレインヒューマニティーのひとつのプロジェクトとして2009年に発足し、経済的な理由で十分な学びの機会を得られない子どもたちに、教育機会を提供する活動を行っています。『すべての子どもに機会を すべての子どもに夢を』をスローガンに、学校外での教育格差を解消し、すべての子どもたちがチャンスを得られる社会を目指しています。



コラボ・スクール【5歳～】

認定NPO法人カタリバ

勉強する場を奪われた子どもたちに、学べる場を



課題

震災から7年。ハード面の復興は少しずつ進んではいますが、子どもたちの心のケアは引き続き重要です。

東日本大震災から7年。2011年コラボ・スクールが始まった宮城県女川町と岩手県大槌町では、ようやく仮設住宅で暮らす子どもの数は2割を切りました。しかし、物心つかない時から被災地で育った子どもたち。彼らの心の内にあるストレスは計り知れません。また、2017年から新たに活動をスタートした福島県広野町の子どもたちは、その多くが長い県外での避難生活を経験しており、学習の遅れを取り戻すことと共に心のケアが必要となっています。

活動

未来をつくり出す力を育むための、心のケアと様々な学習機会を作っています。

震災という逆境を乗り越え、子どもたちの未来をつくり出す力を育むための「学びの場」として、2011年よりコラボ・スクール女川向学館、大槌臨学舎を運営しています。2017年からは双葉みらいラボも加わりました。幼児から高校生まで各年齢に合わせ、心のケアとともに探究的な学びの機会を作り、子どもたちをサポートしています。



成果

岩手、宮城、福島で子どもたちの意欲と創造性を育む「探究学習」を実施。

2017年度、女川向学館、大槌臨学舎、双葉みらいラボで、幼児から高校生まで728人をサポートしました(延べ利用者数は約3万4千人)。毎日の教科学習を通じた、目標を持ち達成する力を養うと共に、自分の興味を深めて形にしていく「探究学習」を通じて、子どもたちが未来をつくり出すための意欲と創造性を培いました。また、子どもたちの学びを支えていくための、地域との連携体制がこれまで以上に整いました。

今後のビジョン

地域と連携し、子ども一人ひとりの意欲と創造力を育む。

岩手、宮城では仮設住宅の解消などハード面の復興が進みますが、子どもたちへの内面的な影響は残ると思われるため、子どもたちが安心して過ごすことができる放課後の居場所は必要です。一方、福島では依然として原発事故の終息の見通しが立たず、子どもたちが置かれた環境は厳しいものがあります。子どもたちの心のケアと共に、逆境を乗り越える力を育むための継続的なサポートが必要です。地域との連携体制を発展させながら、一人ひとりの子どもたちの意欲と可能性を高めるプログラムを行ってまいります。

TOPICS ▶▶▶

① 地域に広がる、子どもたちの学びの場

コラボ・スクールは基礎学力定着のための学習機会にとどまらず、生徒たちの意欲と創造性を育む学びのプログラムにも取り組んでいます。女川では、子どもたちが半年間かけて制作したプロジェクションマッピングを駅の壁面で上映したり、地域の祭りで地元の魚介類を使った創作料理を販売するなど、地域を盛り上げました。



② 学校併設型コラボ・スクール「双葉みらいラボ」開校

福島県立ふたば未来学園高校に併設される形で新たなコラボ・スクール「双葉みらいラボ」が誕生しました。放課後は、学校に隣接された専用施設で、自習スペースと生徒の意欲に合わせた様々な学びのサポートを行っています。また、日中は学校の授業の一つである「未来創造探究」や定期考査のための合宿などの、学校プログラムのサポートを学校と協働して取り組んでいます。



VOICE

卒業生の声

コラボ・スクールは、勉強する場所という以上に、放課後の時間に友人と語り合えること、スタッフの方の様々な経験談を聞いたり、自分が悩んでいる様々なことに相談に乗ってもらえる場所でした。震災後、何もない町にできたコラボ・スクールは、私にとって新しい居場所でした。今、大学生となり、コラボ・スクールでのあの日々が、自分自身の人生を豊かにしてくれた大切な時間だったと思います。私のように、貴重な経験や出会いにひとりで多くの子どもたちがめぐり会えることを、心から願っています。

NPOカタリバ

認定NPO法人カタリバ 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コンズ2F
TEL.03-5327-5667 <http://www.katariba.or.jp/>

カタリバが取り組む社会課題は、「子ども・若者の未来を生き抜く意欲や能力が、生まれ育った環境によって左右されてしまうこと」です。被災や経済的困窮、地域格差など、自分ではどうにもならない事情によって、子どもたち一人一人の可能性が阻まれることがあってはなりません。どんな困難が待ち受けていようとも、この社会を子どもたちが生き抜いていける力。そして、思い描いた未来を創っていける力を、あらゆる子ども・若者に届けることを目指し、全国で様々な事業を行っています。

個人からのご支援

毎月の継続寄付会員
(呼びかけ人)
約1,400名
(2018年3月末時点)

北山 陽一

ゴスペラーズ

震災の時に産まれた子どもがハタチになるまで支えたい。で、ハタチ基金。この20年という活動目標期間は、覚悟のあらわれだと思いましたが、僕は、これは折りだと思ったんです。言葉にして、叶えるんだ、という強い思い。僕はそこに共感しています。起承転結で言えば起から承に移っていきま、ハタチ基金の今後、とてもワクワクしています。

馬越 恵美子

桜美林大学経済経営学系教授

ゼロ歳の初孫が成長して20歳になるまでハタチ基金を通じてもうひとりの方の成長にほんの少しでもお役に立つことができれば、と思っはじめました。その孫はもうすぐ8歳。月日は経ちましたが、まだまだ震災の影響を受けている方も多しと思います。これからも微力ですがお手伝いさせていただけることが嬉しいです。

前田 隆一

有限会社・代表、神社役員、
団体役員・顧問等々

知人からクリスマスカードのメールをもらいました。末尾に、「ハタチ基金を続けています」、との言葉が添えてあったので、ネットで調べて、申し込みをしました。福島浜通りにあった会社は、私の卒業会社の子会社でした。原発の影響下で会社は閉鎖となり、社員や家族はちりじりになったと聞いています。OBたちが募金をさせていただきましたが、この基金のように、小額でも長く支援を続けていきたいと思っています。

松山 亜紀

会社員

あの日、保育園にいる息子の安否が分からずパニックになりながら自宅まで必死で歩いた時のことを思い出すと、胸が苦しくなります。私自身も、及ばずながら一人の親として、少しでも子供たちの未来に想いを寄せたいと思っています。

鈴木 聡美

仄々倶楽部合同会社
代表社員

未曾有の大震災。自分も辛い思いをしましたが、今はとても前向きに頑張っています。人は1人では生きていけません。助け合って生きています。私は沢山の方々に支えられて生きています。そして私も子どもたちが笑顔で過ごせるよう、力になりたいと思っています。

平堀 剛

株式会社アッシュ・マネジメント・
コンサルティング 代表パートナー

3.11の時、東北復興のために何かできないかと探して見つけたのが、ハタチ基金でした。寄附の輪を自分の力でも広げたいと思い、東京マラソンのチャリティーランナーを2012年から始めました。すると、私の走りに賛同して寄附に協力してくれる方も200名を超えるようになりました。これからも、東北復興への思いを乗せて走り続けます。

川上 輝

株式会社ノダ 市場開発部長

母子家庭で5人兄弟でした。弟妹は勉強を頑張り、奨学金で国立大学へ進学し、今は立派な社会人です。奨学金なくしてはあり得ませんでした。私は高卒ですが社会に出て少しでも恩返しと、頑張りたい若い夢を諦めずに、失敗を恐れずに活躍できる舞台へ突き進んで下さい！微力ですが今後も応援させていただきます。

徳永 久美子

Hilton Grand Vacations
Marketing

毎年1度は震災地でボランティアを行っています。なかなか継続は難しいのが現状です。そこで何か出来ればと調べていてハタチ基金に行き着きました。ささやかではありますが子供達の未来にお役に立てたいと思います。

(呼びかけ人)後藤健夫、関根郁夫、荻野弘之、今村久美、岡崎大輔、菅川司、馬場学、村松和彦、白井智子、鈴木啓太、小村俊平、山内悠太、三谷宏治、梅村淳、平川摂、中原淳、常峰和生、杉山達哉、山崎清治、中野真依、谷本勉、大見勉、中山裕美子、岩井俊宗、北山陽一、吉次潤、荒川寛子、村田早耶香、篠原建志、菅原美智子、小山史未子、村田一倫、伊月和夫、清末真司、町田智雄、飯高孝雄、中村慶子、上原航平、安田七海、吉田紫陽子、大湯咲子、大木かおり、松江妙子、川本純子、真鍋康正、酒井雅、久野哲、石田明、村上久乃、宮川直子、田中たまき、水野貴允、野中亮太、古屋克己、泉朋行、岡領二郎、西尾伸介、小倉美代子、渋谷治美、渡多野淳、山本龍太郎、馬越恵美子、芝原靖、田島弓子、茅野和枝、新屋久幸、牧村雅美、新井清美、町田あき子、近藤克彦、斎藤亜弓、吉田真奈美、神谷純子、篠原由美、清野千恵子、堀越美純、田村準、野口陽子、寺脇研、山崎倫代、岡本拓也、クレイネス敦子、中澤澄夫、山脇直司、河村昌治、井生亮一、水沼健、植村久也、田中綾乃、長谷川里奈、高島由美、鈴木信章、住司真、西原真人、林高志、笠原しょうこ、大石さゆり、増田裕幸、山本篤子、川端洋子、瀧島成士郎、鹿野隆、斎藤和幸、掛橋薫、松下光司、山本由美子、三輪潤子、石田昌宏、浜中和美、佐藤尚志、北澤ちさと、吉本知子、村松賢司、貫井政文、小林紀方、鈴木厚子、辻本敬子、石川美穂、馬越太郎、能島裕介、山内明子、大嶋美弥、下村信子、平井豊康、力石みのり、松原真樹、野々山和美、富田英明、石垣路子、山口裕臣、中山貴美子、野々垣みどり、金子孝代、北村智、霜村敬真、米倉弘樹、石崎雅士、中川奈都子、長谷川美貴子、浦橋美加、今林正嗣、古川佳子、若菜勉、野口潤、服部繁男、荻山純一、岡金美砂緒、井上千賀子、中野純、棚橋聖子、加藤和佳子、田崎暢真、田嶋隆・昌子、小室泰子、太田道之、東佑丞、青木薫、徳永忠士、堀口智、山口稔、本間純子、森麻衣子、安田真子、松永志太、高久賢次、小竹政幸、高橋容子、本田美紀、福地潤子、鈴江秀樹、細川邦子、鈴木大介、吉岡緑、愛甲ちえ子、伊藤玲子、菊池しのぶ、熊谷真希子、桐原意有、高橋達也、岩田このみ、増田純平、藤井朋樹、坂本一、鮫島麻実、高根沢香、齋藤礼子、原田裕造、太田智子、濱岡俊、川口崇、小室吉隆、渡辺貴久、貫井猛晶、井上規正、宮原契子、道須佳恵、神谷佳子、大野里香、林隆、竹島彩子、中野充朗、高木真理子、田辺彰、土屋有、紅谷昇平、畑中松雄、田村美香、本田洋子、稲本由紀子、相原ゆみ、高部裕通、細萱智大、小山聖子、野澤純美、内藤賢司、横山知香、木根珠美、富田有紀、松田静子、川崎環樹、高橋あづさ、山崎正枝、菅井啓勝、杉原一臣、一色隆平、黒田朋斎、井上孝之、八塚給里、石原玉美、大山和寿、志垣有紀子、宮田祐子、大塚雅彦、外岡周、たなかりか、手柴孝太、桂隆博、服部祥子、原田裕造、太田智子、濱岡俊、川口崇、小室吉隆、渡辺貴久、貫井猛晶、井上規正、宮原契子、道須佳恵、神谷佳子、大野里香、林隆、竹島彩子、中野充朗、高木真理子、田辺彰、高島啓輔、勝村和子、浅井琢也、伊藤裕子、京野玄、守屋麻樹、木寺寿徳、齋藤薫、高野昌典、吉田裕介、秋元祥治、鈴木亜紀子、松浦俊夫、出村一夫、工藤博司、日下美穂、高橋弘行、長山晴美、茅野博、中島隆文、西村大気、阪本圭、岩崎梨恵、佐々木早苗、森山友歌、谷本悟、鈴木倫子、八巻知香子、大谷亜希子、新井睦美、戸田靖子、川越修、福岡八寿子、川村志げ子、佐藤洋行、織田亜由美、伊藤慎悟、大久保直之、出口善也、宮城島知恵子、村井宏行、石田洋司、小林智彦、山崎ゆみ子、中島徹、村松邦子、清水俊子、志村啓、高橋直人、二瓶孝浩、小林聖子、重面武、齋藤左知子、浅見有紀、神原陽平、近藤安明、山内伸一、猪瀬美樹、内田幸崇、初谷透、石原典明、高山真理子、タナバト淳子、横山元、戸崎優、小林尚子、永田正樹、芳賀淳、北川尚之、加藤節子、早房君枝、奥田洋子、村松由美子、給前悟郎、陸山和子、熊澤みさき、浅野信彦、和田理恵、桐山賢一、佐藤広子、大坪健雄、伊東重、石川茂樹、小見山卓哉、太田多美子、河合慶子、市川かおる、林久美、水野清、小阪由美、桐山裕文、小石浩子、菊池廣平、早坂剛雄、宗像勝巳、小崎太郎、近藤多恵子、篠原昭寿、山下千賀子、土屋泰緒美、小尾勝吉、斎部敏彦、平堀剛、石川紀子、金子浩之、今野いおり、植木久一、奥野友紀、山下兵衛、川清久、石橋隆一、堺寛、神戶祥、前本由季、小池寛子、鈴木奈美、村木美紀子、佐々木巧、木村英之、市原淳子、羽田美佐江、小倉雅子、武田洋子、柳井玲子、佐藤剛、山田洋子、柳井玲子、佐藤剛、山田洋子、古澤法之、塚越淳雄、外崎明誠、阿波野聖一、北澤聖子、川島ひろみ、新井雅美、和田昌興、大山順司、藤本泰世、池上未斗吏、杉田芽子、山崎千晶、松村友紀子、堀井裕司、川崎規郎、池田陽一、中川浩史、吉村章、山崎拓哉、麻田智奈美、加藤愛子、小林洋哉、澤口真

ハタチ基金では、毎月の継続寄付会員の皆様を、「呼びかけ人」と呼んでいます。人々の震災への記憶も、残念ながらだんだんと風化していきます。そんななか、一人ひとりが身近な方へ呼びかけることも、子どもたちへの支援につながります。

ハタチ基金の「ハタチ」には、「20歳」「20年」という意味と、「葉たち」という意味があります。木の幹(子どもたち)が育つためには、葉(=太陽の光を養分に変える)の存在が必要不可欠です。

己子、中島幸治、佐藤寛、伊藤正則、白石慎子、池羽博、純子、杉岡ひとみ、大塚雅一、鶴岡恵太、橋本麻由里、畑地登志子、藤原芳輝、鈴木綾佳、馬場真理子、飯田寛子、宮松扶友基、稲葉薫、友野千英、山口恵、飯田博子、川崎真里、菊宮浩二、鈴木孝史、大滝直義、芝田知明、中村あゆ美、増田優貴、山田裕平、横山健一、角田明良、谷中泰久、高柳妙、堀田峰明、石川淳、岩崎亜由美、西村先晃、堤康之、コルビン麻衣、平若美智代、鈴木知代子、野馬啓介、吉村実由、今福吉和、小原亜紀子、藤井美明、徳森輝、鈴木廣平、木部紗生、高島良、浅井徳明、山本和花、山本剛士、伊藤隆、名倉啓了、寺澤伸太郎、池田洋、白井和美、三島聡史、林幸司、奥井伊都子、菊地麻子、金森詩音、川西雄一、小泉利允、山中祥子、手嶋亮、小野健治、鳥居恭好、山中昌弘、藤下美保、池田ひろ美、佐藤美和子、大平一雄、木村紀之、佐藤珠実、中野絵津子、酒井徳次郎、横田春日、古川由己、清野雅章、山口有里、杉本直子、佐藤洲、栗原利恵、塚原敏江、黒田ひろこ、峠文子、箕輪勉、江島裕司、笠山明男、竹中星郎、石田希帆、若越祥晃、佐藤順子、岡本ひで代、石田聡子、前田隆一、葛西慈和、分部雄太、川嶋昌樹、松山亜紀、落合秀雄、佐藤恭子、富山啓介、乗田かな子、鈴木浩、木屋正和、水戸口恵美、柴田耕輔、種田麻衣子、加川隆彦、太田在、石山典子、近藤智子、真鍋英規、松下温美、池田和子、中崎誠次、関根弘二、佐藤良子、若菜陸、牧野麻衣子、堀見、西川智恵子、川崎美紀、鈴木敏子、神部悦子、後藤大輔、山西篤代、宮内進、板野浩平、吉武真、難賀基、中西真寿美、伊東和彦、山室友美、武田恭和、山下藤美雄、永田和香子、山口玄奈、中森智恵子、内田信、齋藤順子、大谷みゆき、林田健成、平野悠介、鎌田江利子、迫田大貴、岩崎久典、藤田章弘、田中康弘、佐々木拓也、川口美佐世、中山奈々帆、山田真琴、坊屋沙緒里、菊地佑登、柴田強、篠田大子、杉本和俊、佐藤勲、堀米初美、豊島洋一、奈良坂浩、今岡清、津津登世、川上輝、藤谷智子、松尾麗、鈴木聡美、岡内浩之、浦山健、中澤友紀、小坂敏秋、高良法和、中野法子、川崎香苗、中村飛鳥、木村紀子、内海康延、関根徹、野口京子、新藤幸子、若山純子、鶴岡功太、佐藤美恵、橋川武、松尾大成、山口純也、鎌田賢治、岡田公夫、青山幸司、青木伸也、遠藤祐太、小菅哲郎、堀川一也、佐藤友和、佐藤多恵、大西友恵、幸田純子、田中雅人、與古田一、庄子昌春、野口淳、デフロティエ陽子、大塚一、持田隆久、松村清次、大橋民恵、岡奈津子、中越伸行、塩見優希子、三津江敏之、島桜子、南家勝男、張嘉彦、嵯峨克美、オカダクニコ、望月志保、東野直行、青柳誠、瀧口千輝、大塚幸男、杉田紀子、栗尾輝彦、荒賀智恵美、内田大敬、鈴木美智子、真木恒治、中島雅博、甲斐秀富、石原正則、小原光彦、佐藤珠美、吉田大輔、高木佳子、荻原彩子、市村信幸、西田ゆかり、猪俣日出海、植田公明、島原恵、大西恭二、増田きよみ、會田正彦、小川洋史、尾形真、根岸香代子、和田法子、中林和子、渡久地教子、梅田彰、仙崎裕右、飯島善延、山岡雄己、飛田亜由美、笹田稔之、柴沼千史、清水路子、広部尚武、生駒里香、村井勝、岡本昭司、尾花梓、篠原由紀子、吉田弥生、小川佳郎、溝口達也、丸岡努、森谷一正、佐藤加奈、武井有樹子、浜智子、山東総一郎、川合健一、川原田篤生、清水洋子、石井啓吾、北川陽子、林裕美、仲村佳奈子、荒木千賀子、姉崎裕子、新谷義明、河辺牧子、疋田妙子、駒村みどり、青木香住、丸尾彰賢、正田徹、後藤誠、高橋真理、板倉由実、福井正子、佐々木靖史、桑田文子、中西佐緒、藤沼隆志、磯部友美、安斎文彦、細木典子、小野由紀恵、高岡慎昭、高林真子、伊藤周吾、町田律子、仲里カズヒロ、田中治、渡辺晃、濱田誠一、酒井和夫、南雲つぐみ、慶野博是、馬場雅幸、関信二、伊藤安香理、南雄一郎、高橋弘行、小林美紀、森本篤、森薫、市川千賀子、海野徳、斎野徳、鈴木憲之、山口育男、鶴巻雄介、フェルナンデス由布子、五十嵐寛之、中島望美、名和優子、平岡政弘、石橋和也、小川武蔵、北原淳司、田中昭彦、秋田千佳、高嶋真紀、田中美穂、渡辺憲吾、木嶋正孝、徳永久美子、山森純子、広井健一郎、大橋欣仁、下井田奈津子、畑知也子、丸田弘広、中西曉志、元山智子、田口真理子、額賀深雪、綱織善喜、泊圭太、浅野容子、林雅雄 ※2018年3月末までにお申し込みいただいた方のうち、お名前の掲載を許可いただいた方の掲載しております。



企業・団体からのご支援

ハタチ基金では、2017年度、企業・団体様からのご寄付を約200件いただきました。継続的にご支援をいただく企業・団体様も多く、ポスターやチラシの作成・配布など、子どもたちを支える輪を一緒に広めるためのご協力もいただいております。

<p>株式会社一ノ蔵</p>	<p>ダイドードリンク株式会社</p>	<p>アソシエイテッド・インターナショナル株式会社</p>
<p>株式会社ホッタ</p>	<p>株式会社クオカード</p>	<p>株式会社サンポール</p>
<p>Shake Shack</p>	<p>KDDI株式会社</p>	<p>アズワン株式会社</p>

株式会社サンポール、株式会社生活総合サービス、J-POWERグループユニオン、銀座西並木通り会、少林寺拳法創始70周年記念事業、松谷商事株式会社、一般社団法人日本サロネーゼ協会、株式会社ディノス・セシール、ヒトノユメ、チューリッヒ日本人会、株式会社LOUVREDO、株式会社ソフィア、日蓮宗島根県教化センター、ハタチ基金チャリティコンサート実行委員会2017、株式会社オオイシ、株式会社CORE技術研究所、キュービーグループマッチングギフト「QPeace」、大阪ガス株式会社、尾張旭ランニングクラブ、株式会社トラクシィ、北海道大学医学部41期会、HMC事務局、NPO法人Dance Association Seeds、Art for people、株式会社サイコーポレイション、山佐産業株式会社、株式会社ハニードライ、DRAGON HEAD、つながる箱、M's & ストラボ「震災復興支援イベント2018」事務局、フィットネスサークル「Love & Peace」、ハンドベルアンサンブルYD、ハンドベルカンパニー一音、湘南台音楽祭実行委員会、株式会社エルゼ、Run for Children Tohoku in adidas RUNBASE、コアスタッフ株式会社、COZAL FUTSAL LIFE!、ニューヨーク補習授業校LI校生徒会、京都市少年補導委員会・京都府少年補導連絡協議会、医療法人さき山歯科クリニック、一志眼科、株式会社ライフコミュニケーション、共同カイテック株式会社、心の絆応援プロジェクト実行委員会、池田公園ぬくもり音楽祭実行委員会、日油株式会社、医療法人イスマイル国際矯正歯科、株式会社リベルタ、特定非営利活動法人 洋服ポストネットワーク協議会、八嶋エンジニアリング、ジャバンクラシックミニチャリティーミーティング 南関東、湘南寒川パソコン教室 ちづる大楽、株式会社丸治、株式会社まるじょう、Makani Nanea&Hoapili Aloha、hair salon Gallica … ※その他、たくさんの企業・団体様からご支援をいただきました。



支援者様からのメッセージ



株式会社生活総合サービス
経営管理部

高津 英彰

「ていねい通販」へのお友達紹介数に応じて、年に一度、ご支援いただいております。

継続的に支援し続けられるという点が、ハタチ基金の魅力だと思います。支援を求める子どもたちが、それぞれ自分の夢や目標を見つけて、実現できることを願っています。微力ではありますが、私どもと一緒に継続的に支援して参りたいと思います。



ハタチ基金
チャリティコンサート2017
実行委員会

高柳 寛樹 堀田 峰明

2012年から継続的に開催されているハタチ基金チャリティコンサート。2017年も約90名の方にご参加いただき、収益の全額をご寄付いただきました。

音楽という触媒を通じて、被災地へ温かいまなざしをそそぐお手伝いを、これからも続けていきたいと考えております。2017年は、前年度に引き続きハタチ基金の支援を得て進学することができた大学生より被災地の状況をお話いただき、懇親会では多くの参加者と交流していただきました。



一般社団法人
日本サロネーゼ協会
代表理事

桔梗 有香子

11月9日のアイシングクッキーの日にあわせ、全国12か所でチャリティーイベントを実施し、その収益の一部をご寄付いただきました。

「好きなことで、社会貢献を」という想いのもと、日本サロネーゼ協会所属の講師たちが一丸となって、毎年チャリティーイベントを開催しています。子どもたちの未来のために継続的に支援を行っている「ハタチ基金」さんの活動を、今後も微力ながら応援していきたいと思っています。



少林寺拳法
創始70周年記念事業

担当役員 宗 昂馬

実行委員長 倉本 亘康

少林寺拳法創始70周年記念事業にて皆さまより寄せられた支援金をご寄付いただきました。

私たちは「困っている人を見たら、すぐに行動できる体力と感性を養おう」と普段の修練の中で呼びかけています。また、助け合う関係の先に、住み良い日本社会があると思っています。未来を遠望するハタチ基金の活動に関われてよかったと思います。



ヒトノユメ

白井 ゆみ枝
高橋 久美子

作家・作詞家の高橋久美子と、画家の白井ゆみ枝を中心としたアートチーム「ヒトノユメ」。全国で開催した「ヒトノユメ展」で販売したポストカードセットの全額をご寄付いただきました。

あの日生まれた子どもたちが20歳になるまで見守っていこうという活動を、微力ながら応援させていただこうと思い、全国のみなさんが寄せてくれた思いを支援金という形で送らせていただきました。みなさんが元気に自由に楽しい人生を歩んでくれたら一番うれしいです。



株式会社
LOUVREDO

2都市開催のフォーラムでのチャリティTシャツ販売額及び、年末年始に実施するお客様感謝企画による収益の一部をご寄付いただきました。

子どもたちが夢をもって、笑顔で暮らしていく為に、そして、日本を背負って立つ多くの子どもたちを少しでもご支援できればと思っています。

会計報告

〈公益社団法人ハタチ基金 決算報告〉

正味財産増減計算書 2017年4月1日～2018年3月31日

(単位:円)

科目		2017年度実績	科目	2017年度実績		
① 一般正味財産増減の部	経常収益	受取寄付金	受取寄付金	74,017,864		
		受取寄付金振替額(指定正味財産からの振替額)	一般正味財産への振替額	▲74,436,261		
		受取利息	当期指定正味財産増減額	▲418,397		
	経常収益計		111,448,856	指定正味財産期首残高	32,754,643	
	経常費用	1.事業費	人件費	3,166,272	指定正味財産期末残高	32,336,246
			助成金	80,000,000	③ 正味財産期末残高	33,432,346
			事務局運営費	9,740,021		
		2.管理費	その他事業費	9,819,583		
			人件費	1,055,424		
			事務局運営費	3,246,673		
その他事業費			4,428,730			
経常費用計		111,456,703				
当期一般正味財産増減額		▲7,847				
一般正味財産期首残高		1,103,947				
一般正味財産期末残高		1,096,100				

●残高は2018年度に行う事業および、基金の継続的な運営管理のために使用させていただきます。
 ●呼びかけ人の皆様からのご寄付については一般寄付金とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動および基金の運営管理など、ハタチ基金の活動全般を長期的に継続していくために使用させていただきます。
 ●ご都合のよい時にいただく都度のご寄付については指定寄付金とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動のために活用させていただきます。

貸借対照表 2018年3月31日現在

(単位:円)

科目		金額	科目	金額		
① 資産の部	流動資産	現金預金	3,951,580	② 負債の部	1. 流動負債	
		前払金	60,000		未払金	3,539,296
		流動資産合計	4,011,580		流動資産合計	3,539,296
	固定資産	(1)基本財産		2. 固定負債		
		基本財産合計	0	固定負債合計	0	
		(2)特定資産		負債合計	3,539,296	
		助成事業特定資金	31,336,246	③ 正味財産の部	1. 指定正味財産	
		特定資産合計	31,336,246		寄付金	32,336,246
		(3)その他固定資産			指定正味財産合計	32,336,246
		ソフトウェア	1,623,816		2. 一般正味財産	1,096,100
その他固定資産合計	1,623,816	正味財産合計	33,432,346			
固定資産合計	32,960,062	負債及び正味財産合計	36,971,642			
資産合計		36,971,642				

監査報告書

平成30年5月30日

公益社団法人ハタチ基金
 代表理事 今村 久美 殿 駒崎 弘樹 殿 栗田 智子 殿 能島 裕介 殿
 公益社団法人ハタチ基金 監事 瀧口 敏

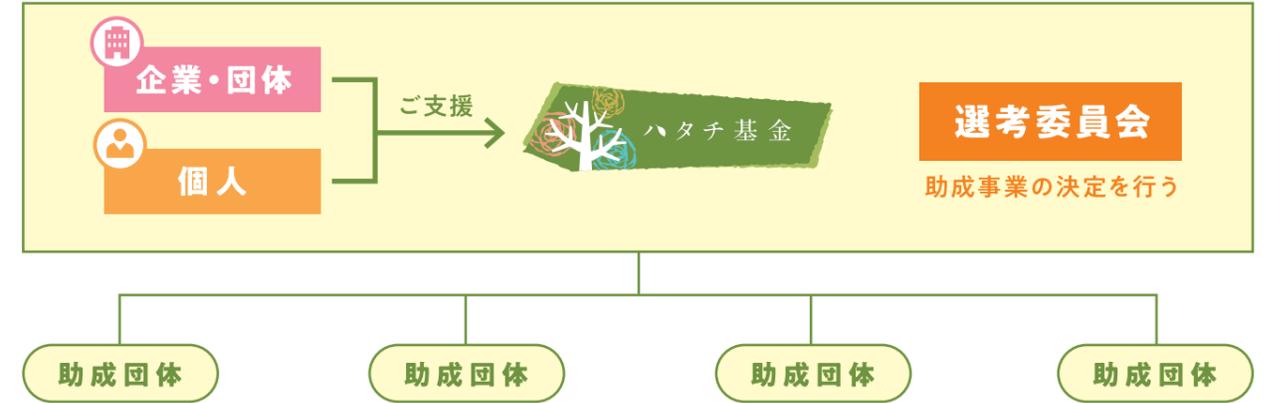
私は、公益社団法人ハタチ基金の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの会計年度における会計ならびに業務を監査するため、帳簿および関係書類の閲覧、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取するなど、必要と思われる監査手続きを実施して財務諸表の正確性および業務執行の妥当性について検討しました。その結果、次のとおり報告いたします。

1.計算書類およびその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産および損益の状況を正しく示していると認めます。
 2.事業報告書は、法人の業務執行の状況を正しく示していると認めます。
 3.理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

〈2017年度公益社団法人ハタチ基金助成事業について〉

助成件数:4件 助成金額:80,000,000円



〈各団体の支出〉(使用期間:2017年4月1日～2018年3月31日)

認定NPO法人フローレンス

●おうち保育園 【総事業費】62,659千円

ハタチ基金からの支出内訳	金額
人件費	9,801
施設運営費	2,586
旅費交通費	813
研修費	263
広告費	37
合計	13,500

NPO法人トイボックス

●みなみそうまラーニングセンター 【総事業費】24,668千円

ハタチ基金からの支出内訳	金額
人件費	2,879
業務委託費	1,950
地代家賃	1,830
旅費交通費	1,533
水道光熱費	479
その他(通信運搬費、車両燃料費等)	629
合計	9,300

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

●スタディクーポン提供事業 【総事業費】101,147千円

ハタチ基金からの支出内訳	金額
クーポン費	10,350
人件費	3,625
地代家賃	1,818
通信運搬費	1,660
消耗品費	1,142
その他(旅費交通費、手数料、ボランティア研修費等)	2,105
合計	20,700

認定NPO法人カタリバ

●コロボ・スクール 【総事業費】242,826千円

ハタチ基金からの支出内訳	金額
人件費	25,461
地代家賃	2,465
研修費	1,907
支払報酬料	1,234
旅費交通費	1,107
その他(手数料、消耗品費、旅費交通費等)	4,326
合計	36,500

子どもたちに学び・自立の機会を提供するために、
 復興状況や現地のニーズに合わせて支援活動を実施する団体へ助成を行いました。
 皆様の想いとともにご寄せられたご寄付を、確実に子どもたちのために役立てます。

各事業の総事業費および、その中でハタチ基金からの配分を使用した支出を記載しています。



ハタチ基金へのご支援の方法

ハタチ基金は皆様からのご寄付によって活動を実施しています。被災地の子どもたちを支援することは、被災地の復興、そして日本の未来を作ることに繋がると私たちは信じています。

① 毎月の継続寄付

毎月の継続寄付会員(呼びかけ人)として、月々1,000円からクレジットカードで継続的にご寄付。

1日33円から

お申込みはWEBサイトより
<https://www.hatachikikin.com/shien/personal/monthly>

ハタチ基金 呼びかけ人

検索

※既にご支援いただいている方でご増額をご希望の方は事務局までご連絡ください。

▼ご支援金額

- 1,000円/月 ● 5,000円/月
- 2,000円/月 ● 10,000円/月
- 3,000円/月 ● 50,000円/月

② 今回のご寄付(個人/法人・団体)

ご都合の良い時にご希望の金額を、銀行振込またはクレジットカードでご寄付。

自由な額で

お申込みはWEBサイトより
<https://www.hatachikikin.com/shien/tudo/donate>

ハタチ基金 今回のご寄付

検索

※銀行振込みの場合、WEBサイトよりお申込みの上、右記口座にお振り込みください。

▼ご寄付専用口座
 【三菱UFJ銀行】
 高円寺支店(店番号:155)
 公益社団法人ハタチ基金
 コウエキシヤダンハタチキキン
 シヤ)ハタチキキン
 口座番号:普通 0144274

ハタチ基金へのご寄付は寄附金控除(税制優遇)の対象です。

※寄附金控除を受けるには、確定申告が必要です。詳しくはお近くの税務署にお問い合わせください。

③ その他のご支援方法(一部)

チャリティーブックカバー

フリーサイズ&着せ替えデザインのブックカバー「アマネカ・カスタム ハタチ基金チャリティーモデル」(WEBサイトでの限定発売)を通じて、販売価格の35%をご寄付いただいています。



ジェコル officialサイト(ジェコル株式会社)
<http://jecol.co.jp/amaneca/am-c4/am-c4-charity/>

キッズスマイルQUOカード

カード一枚につき50円がハタチ基金など東日本大震災の被災地の子どもたちを笑顔にする活動への寄付につながります。



キッズスマイルQUOカード(株式会社クオカード)
http://www.quocard.com/special/kids_smile/

キボウのカケハシ

「auかんたん決済(auの通信料金と合算してお支払いただけるサービス。WALLETのポイントでも寄付が可能)」、または「じぶん銀行」からご寄付いただけます。支援先にハタチ基金をご選択ください。



KDDI社会貢献サイト「キボウのカケハシ」(KDDI株式会社)
<http://kakehashi.kddi.com>

いいことシップ

リユースできる不用品を送付すると、1箱につき100円が子ども達を支援する団体への寄付となります。支援先にハタチ基金をご選択ください。



いいことシップサイト(一般社団法人いいことファーム) <https://eco-to-ship.jp/>

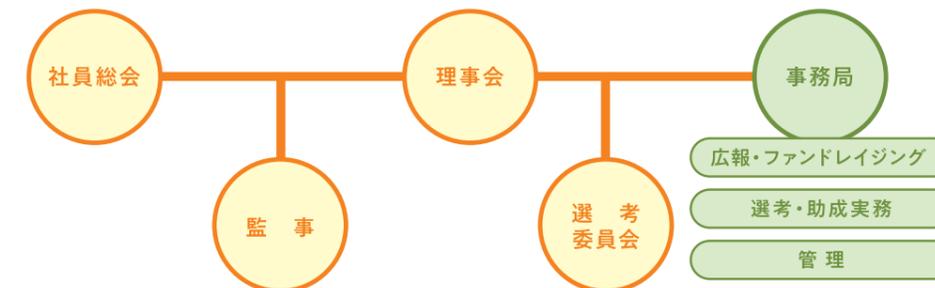
※その他、様々な形でのご支援をいただいております。最新情報はWEBサイトをご覧くださいませ。

運営団体紹介

団体概要

名称	公益社団法人ハタチ基金
本部	東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F
TEL	03-3330-0005(平日9時~18時)
FAX	020-4665-3239
E-MAIL	info@hatachikikin.com
設立	2014年10月1日(2011年4月に基金設置)
役員	代表理事/今村久美、白井智子、能島裕介 監事/瀧口徹

組織図



沿革

2011	2011年3月11日	東日本大震災発生
	2011年4月	公益財団法人日本財団内に「ハタチ基金」を設置 日本財団と被災地支援実施団体との共同プロジェクトとして活動開始
2012		
2013		
2014	2014年10月	日本財団の参画終了に伴い、後継団体として公益社団法人ハタチ基金を設立
2015	2015年1月14日	公益社団法人ハタチ基金が基金運営を引き継ぎ
2018		

代表理事よりご挨拶



代表理事 白井 智子



代表理事 今村 久美



代表理事 能島 祐介

2017年度も皆様からのご支援のおかげで、活動を継続することができました。温かいご支援に感謝申し上げます。今後もハタチ基金を通じて、子どもたちの成長に伴走いただきますよう、よろしく願いいたします。